

学校と地域をむすぶ

# かけはし

大津市立葛川小・中学校  
地域コーディネーターだより

2014. 9. 30

NO. 3

## 葛川学区秋季大運動会

9月13日に葛川学区秋季大運動会が盛大に行われました。保育園、小・中学校、そして葛川・久多の地域の人々が一同に会しての大運動会。

今年の運動会のスローガンは「めっちゃ本気やし。」。このスローガンは、中学生と小学校高学年が、一学期から話し合いを持って考えたものです。校舎からは子どもたちの書いた「めっちゃ本気やし。」の垂れ幕が下げられ、これを見上げながら子どもも大人も全力を出し切りました。入場行進では保育園児の手をつないで歩幅



を合わせて歩いてくれる中学生、胸をはって堂々と歩く小学生、三部対抗優勝への闘志を燃やす地域の人々の「めっちゃ本気」の意気込みが感じられました。昨今日本中をわき上がらせたテニスの錦織圭選手の最後まであきらめずに全力を出し切ったプレ

イに学びたいという言葉の盛り込まれた選手宣誓にも力強さを感じられました。たくさんの人々が声を出し、汗を流し、大きな声援や拍手を送る一日でした。

## 保育園から中学生まで

保育園児9人、小学生15人、そして中学生8人が紅白に分かれて行った「いそげやいそげ」の競技。中学生のお兄さんお姉さんがリーダーとなって保育園児小学生が三人組でフラフープを持って走り、色玉を早く移し



替えます。小さい子どもたちがこけないように気遣う中学生。中学生に引っ張られながら一生懸命走る園児たち。「いそげやいそげ」と速さを競い合いながらも、なごやかな楽しい雰囲気がフラフープの中からわき上がっていました。

## 大人も子どももいっしょになって

プログラムの合間にはいる地域の競技。中でも、ファイヤーマンレースやパン食い競争では、子どもも大人もいっしょになって競技を楽しみました。ぶら下がるお菓子の袋を手に入れるために水鉄砲で必死に水をかける子どもたち。互いに水をかけあう大人たち。大好きな菓子パンを選びながらパンにとびつく子どもたち。次の日の朝食の食パン争奪戦に上下左右に大きく揺さぶられることにもめげずにあきらめない大人たち。競技に参加している人も見ている人も楽しむことができました。



## 練習の成果を出し切って

小学生の行ったダンス「ヒカリ輝け！」。4色のビニル袋をフラッグにして演技をしました。15人という人数の少なさも、大きく振るフラッグでカバーしました。9月1日から始めた練習では、振り付けや隊形移動を覚えるのが大変でしたが、何度も練習を重ねていく中で、一人ひとりが演技をすることだけに終わらず、列をまっすぐそろえよう、色ごとのウェーブをきれいに見せようなど全体を気にしながら演技できるようになりました。



そして後半の組体操「団結」。一人技では苦手なことを家で練習したり、手足の先までピンとのぼして静止して決められるように心がけたりもしました。途中から中学生にも



入ってもらい、二人技、三人技から大技まで作りあげました。中学生と練習する時間はなかなかとれませんでした。朝一番、授業が始まるまでの限られた時間を練習にあてたりもしました。はじめの頃は、上に乗るのがこわかったり、落ちかけたり、体を支えられなかったりしていた小学生でしたが、土台になってしっかりと支えてくれる中学生を信じて、小学生は自信をもって上にのぼって技を決めていくことができるようになっていきました。

練習を重ねるごとに、「もう少し後ろにさがって」「これで大丈夫？」「こっちにのって」など、声をかけ合いながら息を合わせていく姿が見られました。土台でしっかりとふんばってくれる人がいて、安心して上にのぼって技を決めることができます。そして、最後の大技四段タワーは、まわりできめた技もいっしょになって、グラウンドに大きな「団結」を作り上げました。



## お年寄りの方々とふれあって

普段からいっしょに遊んでもらったり、いろいろな巧みな技を教えていただいている寿会のみなさん方。この運動会でも子どもたちといっしょに



競技を通してふれあいの場を持つことができました。保育園児と小学生1・2年生の子どもたちは、お年寄りの方々とうちわにボールをのせて走りました。顔なじみのおじいちゃんおばあちゃんたちをリードしてはりきって走る子ども

たち。「○○ちゃん、上手にのせてるなあ」とおほめの言葉もかけてもらい喜ぶ子どもたちでした。小学生3～6年生と中学生はお年寄りの方々とボール送りを楽しみました。お年寄りの方々の間に子どもたちが入り一列になってボールを送る速さを競います。「はい、はい、」とかけ声をかけたり、転がるボールをおいかけしておばあちゃんに手渡す子どもたち。ボールを介して赤白チームワークを高め合いました。寿会の皆様方、ありがとうございました。



## 一致団結 応援合戦

保育園、小学校、中学校の競技は紅白で得点を競い合い、点数も常に気になるところですが、もう一つ勝負をかけて気合いを入れてきたのが応援合戦でした。一学期から、それぞれのチームの応援団長や小学校高学年、



中学生を中心に応援内容を考え練習に取り組んできました。4分間という限られた時間の中で、独自の手拍子で振り付けをしたり、替え歌の応援歌を歌ったり、オリジナルのキャラク

ターを登場させたりなど、盛りだくさんの応援でした。保育園の子どもたちも一生懸命覚えて声を出したり振り付けをしました。



練習のはじめの頃は、大きな声で歌うことができなかつたり、手拍子がそろわなかつたり、恥ずかしくて振りが小さくなつたりしていましたが、団長やリーダーが「もっと〇〇しよう」「〇〇できてきたで」など声かけをするごとに、みんなが一つになっていくのが感じら

れました。どちらのチームも全力を出し切りました。結果、紅組は「ユーモア賞」、白組は「アイデア賞」をとり、それぞれがんばってきたところがこの賞で認められました。午後一番のプログラムのこの「応援合戦」により、一段と両チームの団結力は高まり、最後の全員リレーまで勝負をあきらめることなく力を出し切りました。



## 三部対抗 大人たちの白熱戦

葛川の大運動会は保育園・小中学校の校園の部と地域の部の両方の演技や競技が盛り込まれた、市内どこにもない盛大な運動会です。子どもたちの演技や競技に大きな声援や拍手を送ってくださる地域の方々ですが、地域の部では「めっちゃ本気やねん！」と葛川の南部・北部、そして久多の3チームによる三部対抗競技で真剣勝負をかけます。中でも盛り上がりを見せたのは「つなひき」。



腰を落としてかけ声をかけ、必死に綱をひっぱる大人たち。「〇〇ちゃんのおっちゃん、がんばれ〜」「あと、もうちょっと〜」と応援する子どもたちもその場で足をふんばります。昨年度に引き続き、圧倒的強さを見せたのは久多チーム。また、「玉入れ」では、特にお年寄りの方々が長年のプロ技



を披露してくださいます。見ている子どもたちも、玉が入るたびに「あっ、入った〜」と歓声をあげたり、「もっと入れ〜」と応援しました。かごを見上げて必死になっている大人たちとそれを見守る子どもたちが一つになっていました。

多くの三部対抗競技で白熱戦が繰り広げられ、結果、今年も優勝は久多チームとなりました。

## 防災の心得 体験をいかして

小中学生による障害物競走は種目内容が楽しみです。走る速さだけではなく、技や運も勝敗に大きく影響します。小学生は綱くぐり、竹馬か缶ぼっくり、借り物で勝負を決めます。「めがねをかけている人〜」「だれかの

お父さん～」などコールされると、どこからともなく走り出してきてくれる人たち。会場もいっしょになって楽しみました。中学生は小学生の種目に加えて技を競う種目が盛りだくさん。風船をふくらませておしりで割ったり、のこぎりで木を切ったりします。そして今年の注目の種目は「土のう積み」。7月下旬に行われた「防災訓練体験講座」で防災士の飯島さんや自治会の自主防災の人たちから「土のう」の作り方を教えていただきました。その体験を生かして土のう袋にスコップで土を入れ、指ぬきをしながらひもをくくりまわします。規程の高さまで土のうを積み上げられたら合格！「土のう」は見た目以上に重くて運ぶのは大変でした。体験したことをいかしながらの競技、また実生活でもいかしていける体験、葛川ならではの障害物競走の種目だったと思います。



## どうしたらふえる？八の字とび

大縄の八の字とび。3分間で何回跳べるか？2回勝負で合計跳び数を競います。練習をはじめた頃は、縄をゆっくり回して低学年の子どもたちも確実に跳べるようにしていました。が、これではなかなか跳び数はふえま



せん。縄を早く回すとひっかかる人も増えてきます。どうしたら、みんなが早い縄についていけるのか？放課後などの少しの時間を見つけて練習に取り組みました。ただ練習するだけではなく、跳



ぶ順番をかえたりするなどの作戦も考えました。本番、勝負をかけてみんなが縄に集中します。縄を回すスピードもかなり速いのに、みんながどんどん跳んでいきます。中学生が1・2年生の背中をポンと押してあげます。すると1・2年生はタイミングをもらってうまく跳べます。みんながスピードの速い縄にもついていき、みんなが跳ぶことができるように考えた練習と作戦の成果です。両チームともはじめの練習からは想像もできないくらい多くの回数を跳ぶことができました。

## 最後の勝負 全員リレー

保育園の年長さん、小学生、中学生で行う全員リレー。紅白チームに分かれて給食を食べながら、走る順番を決めたり作戦を立てたりしてきました。バトンパスの練習では中学生がアドバイスをしてくれました。リレーゾーンの中のバトンをもらう場所もそれぞれ考えました。今年はオーバーゾーンやインコース抜き禁止などのルールを徹底し、フェアなプレイで勝負することにも心がけました。レースが終わった後の審判団の判定では、反則は一つもありませんでした。一人ひとりが全力で走り、バトンでチームの絆をつないでいくことができました。

途中、何度か雨が降ったりしましたが、すべての競技や演技を予定通り行うことができました。小さい子どもからお年寄りまでがいっしょになって競技を楽しんだり声援を送ったりしました。普段見てもらうことのできない演技や競技をたくさんの人たちに見てもらうことができました。学校だけ、地域だけではなく、学校と地域とがいっしょになって盛り上がった運動会。今年もまたこの運動会を通して、人と人との関わりが深まり、ふれあいの輪が広まりました。